

【視察調査報告書】

委員会名	文教経済委員会
派遣委員名	【委員】 9名 渡口禎委員長、石川裕司副委員長、岩田祐樹委員、市川克宏委員、前田佳子委員、 浜中賢司委員、村松徹委員、相澤耕太委員、美濃部弥生委員
日 程	平成 30 年 5 月 15 日（火）～ 5 月 17 日（木）
視察先一覧	1 福島県郡山市 「日本遺産ストーリー、魅力発信事業について」 2 岩手県盛岡市 「MICE 及び観光コンベンションの取り組みについて」 「スポーツを通じたまちづくり（スポーツコミッション）の取り組みについて」 3 青森県八戸市 「八戸ポータルミュージアム「はっち」の取り組みについて」
調査内容詳細	詳細は別紙のとおり
委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)	<p>1 . 郡山市 「日本遺産ストーリー、魅力発信事業について」 安積開拓発見事業からのストーリー展開での文化庁との関わり合いについて具体的にわかりやすく説明いただき大変に勉強になった。担当職員の皆さんも歴史などを得意としていない方が新たな発想のもとに取り組んで一つの成果を残しており、その後の魅力発信にも通じる熱い思いを感じることができた。本市においても日本遺産の申請を目指しており、大いに参考としたい。</p> <p>2 . 盛岡市 「MICE 及び観光コンベンションの取り組みについて」 観光地域づくりとしてのまちなか観光の推進、スポーツツーリズムの推進、グリーンツーリズムの推進や観光産業の競争力強化として、MICE 誘致の推進を積極的に行っている様子を確認することができた。観光とスポーツに特化した取り組みとして大変に興味深く、また行政の取り組みが市民への認識にも繋がっており、行政と民間との連携がよく取れている様子があり大変勉強になった。今後の本市の MICE の取り組みに関して大いに参考になった。</p> <p>盛岡市 「スポーツを通じたまちづくり（スポーツコミッション）の取り組みについて」 スポーツによる交流人口の拡大、地域スポーツの推進、プロスポーツとの連携、東京オリンピック・パラリンピックなど、メガスポーツイベントや事前キャンプの誘致などの取り組みなどを勉強させていただいた。行政が行うまちづくりでこれだけ多くのスポーツがそれぞれ市民と繋がっている状況は大変羨ましい。カナダとは、姉妹都市交流によりホストタウンに認定されるなど、市長のスポーツに対する思い入れが強く、市長の思いと市民の思いを一致させる取り組みとして大変勉強になった。本市においても、これからスポーツと MICE を連携していく良い事例として大いに参考になった。</p> <p>3 . 八戸市 「八戸ポータルミュージアム「はっち」の取り組みについて」 「はっち」に入ったところ多くの市民の方で賑わっていた。新しい取り組みとして大変興味深く勉強させていただいた。市長の熱い思いが具体的に民間との連携につながり、行政がなかなかやらないような横丁のイベントなどを実施できること。また、これらの事業が認知され、また行政が何かやっていると思われるワクワク感のような感覚が自然と市民も違和感なく事業に参加していることを感じた。観光紹介やアートプロジェクトの実施等、交流と創造の拠点として、地域の活性化を図る取り組みとして大変に勉強になった。本市における医療刑務所跡地活用にも参考にしていきたい。</p>

視察先	福島県郡山市（郡山市議会）
日時	平成 30 年 5 月 15 日（火曜日） 13 時 00 分
調査項目	日本遺産ストーリー、魅力発信事業について
選定理由	本市では日本遺産の申請を目指すなか、庁内関係所管と連携し歴史や文化財、食や体験、土産など、特徴的なものを取り入れてストーリーの策定を考えており、本市の魅力も発信し、観光振興やシティプロモーションの取り組みを行っていくため、郡山市の取り組み事例を参考にするため視察を行う。
概要	郡山市は平成 28 年 4 月に「未来を拓いた『一本の水路』 - 大久保利通「最期の夢」と開拓者の軌跡郡山・猪苗代 - 」のストーリーが文化庁から日本遺産の認定を受けた。日本遺産は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、ストーリーを語る上で欠かせない魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけではなく海外へも戦略的に発信していくことで、地域の活性化を図ることを目的としている。
調査内容 主な質問	<p><質問> 最初は世界遺産を目指していたとのことだが、日本遺産に転換したきっかけと、日本遺産の対象を安積疎水にした理由を聞きたい。</p> <p><答え> 安積開拓発見事業が始まったときと、国の日本遺産の事業が開始した時期が同じだった。当初は世界遺産を目指していたが、物はないがストーリー性ならいけると思った。歴史を得意としない職員が業務に携わり、わかるようにストーリーをつくったことが良かった。</p> <p><質問> 文化庁に求められた 8 項目と観光視点でストーリーをつくることは矛盾するが、どうやって解決したのか。</p> <p><答え> 文化庁からは、最後にもっと地域の特色を入れるようにと指示された。郡山市は交通の要衝として、全国、世界から人と物、技術が流れ、さらに文化等の多様性を受け入れられる土地である。文化庁は厳しく、矛盾することをたくさん言って、宿題もたくさん与えてくれた。宿題がなければ、このストーリーにたどりつけられなかったと思う。文化庁はきっかけを与えてくれた。</p> <p><質問> 日本遺産を取得して、これをきっかけに、郡山市への来外者の推移は、どうなっているのか。</p> <p><答え> 外国人はあまり来ていないのが現状である。開拓の中心だった開成館は観光客など来館者は増えたが、右肩上がりではない感じはある。制度を市民が知らないという課題や、安積疎水を知らないことが課題だった。毎月、広報紙で日本遺産を特集したり、全庁的に日本遺産を PR したことで、日本遺産が浸透してきた。</p> <p><質問> 市への経済効果について教えてほしい。</p> <p><答え> 経済効果は、まだ顕著に現れていないのが実情であるが、全国のテレビ局等で、安積疎水を取り扱ってくれることがすごく増えた。お金をかけないで PR する方策を得たことは、プラスになった。</p>
その他	  

調査内容	視察先	岩手県盛岡市（盛岡市議会）
	日時	平成 30 年 5 月 16 日（水曜日） 9 時 15 分
	調査項目	M I C E 及び観光コンベンションの取り組みについて
	選定理由	都市の有する歴史的、文化的遺産を活かした都市観光の創設、現代都市としての機能、娯楽、商業の観光資源など、都市型観光の取り組みや、インバウンド（訪日外国人観光客）への取り組み、MICE コンベンション誘致、コンベンション推進施策に関する取り組みを参考にするため視察を行う。
	概要	盛岡市では交流人口の増加と観光産業の振興を通じて雇用の創出と地域経済の活性化、多様な文化交流の実現を図るため、平成 27 年度に観光推進計画を策定した。その中で、観光地域づくりとしてまちなか観光、スポーツツーリズム、グリーンツーリズムなどを推進し、また観光産業の競争力強化として、全国規模の学会や国際会議、大規模商談会等の開催助成や会議後のアトラクションにおける伝統芸能の派遣支援など、総合的な支援制度を創設し、MICE 誘致活動を推進している。また、国際観光の推進として外国人観光客の受入環境の整備、観光案内表示の多言語化など、おもてなしツールの充実を図るほか、無料 Wi-Fi などの通信環境の改善の推進を行っている。
主な質問	<p><質問> イベントの誘致について、特にターゲットにしている国際会議やイベントなどはあるのか。</p> <p><答え> 盛岡市近郊には大学が四つあり、大学の先生からの呼び込みを強化している。また、子どものスポーツ大会は親のほかに、祖父や祖母も一緒に参加する例もあるので、より経済効果があると考えており、今後はスポーツの担当課と一緒に誘致を進めていきたい。</p> <p><質問> MICE の助成を始める前と後の実績について教えてほしい。</p> <p><答え> 助成前は約 100 件前後で横ばいとなっているが、制度開始後は 27 年度 102 件、28 年度 88 件、29 年度 90 件と減少しているが、件数が増えたから人数が増えるわけではなく判断は難しい。件数と人数の関係は大会の規模にもよる。</p> <p><質問> MICE の来街者を増やすため、行政と宿泊施設、飲食店との関係性はどうなっているのか。</p> <p><答え> MICE 誘致推進機構には、宿泊施設と観光施設と物販等の事業者、飲食店等が含まれており、誘致活動も一緒に行っている。定期的に集まって、発信の仕方について協議をしている。</p> <p><質問> MICE の経済効果を、どのくらいと考えていたのか。</p> <p><答え> 外部に依頼して経済効果を計ってはいないが、県の観光統計を使って特に具体的に指数は出していないことや、利用金額も大きいため、経済効果を計ることは、現在課題と捉えている。</p> <p><質問> 市民周知や民間企業との連携などで、MICE はみなさんに認識されているのか。</p> <p><答え> 事業者は関連する部分が多く認識はあるが、市内には観光客や修学旅行生が訪れており、コンベンションや修学旅行で訪ねてもらっているまちと、市民にも認識してもらっていると思っている。</p>	
その他		

調査内容	視察先	岩手県盛岡市（盛岡市議会）
	日時	平成 30 年 5 月 16 日（水曜日） 10 時 15 分
	調査項目	スポーツを通じたまちづくり（スポーツコミッション）の取り組みについて
	選定理由	スポーツによる交流人口の拡大、地域スポーツの推進、プロスポーツとの連携、東京オリンピック・パラリンピックなどメガスポーツイベントへの取り組み、事前キャンプの誘致などの取り組みを行っており、その取り組み事例を参考とするため視察を行う。
	概要	「スポーツの力が盛岡の未来を創る」のコンセプトのもと、プロスポーツとの連携によりスポーツ施策を積極的に推進している。現在、盛岡市を拠点に活動しているプロスポーツチームは、バスケットボールBリーグ岩手ビッグブルズ、サッカーJ3に参入したグルージャ盛岡の2つある。スポーツによるまちづくり・地域活性化の推進のためには、地域スポーツコミッションの拡大が必要であり、盛岡広域8市町(盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町)では、相互に連携・協調してスポーツツーリズム等の取り組みを通じ、盛岡広域圏の魅力の発信と賑わいの創出を図る組織として、平成29年3月に盛岡広域スポーツコミッションを設立した。
主な質問	<p><質問> カナダをホストタウンとして誘致できた理由について、教えてほしい。</p> <p><答え> カナダとは姉妹都市交流がありホストタウンの認定は簡単にできると考えていたが、実際は難しかった。私が以前、交流事業の担当をしていたことで窓口となり、優秀な方を紹介してもらい、チームを紹介してもらえた。交流が30年以上、円満に続いてきたことが大きな要因と考えている。また、市長は県議会議員時代より非常にスポーツに対する思い入れが強かったことも理由と考えられる。</p> <p><質問> 住民参加システムの構築について、検討していることはあるか。</p> <p><答え> 平成28年度の国体のときに登録されたボランティアを中心に、都合のよい方や興味のある方に参加してもらっている。盛岡市で始まったが、現時は盛岡広域圏全体の8市町で行っている。</p> <p><質問> 8市町で連携・協調して、スポーツツーリズムに取り組んでいくにあたってのメリットはなにか。</p> <p><答え> 盛岡市でウェブサイトを運営しており、各自治体の情報をもらえれば発信することができる。また、スポーツ選手を紹介するスタンダードの雑誌に、平成29年度の掲載費は盛岡市が全部支払ったが、八幡平市などの人も紹介されており、30年度からは各自治体で負担し合っ、目に留まると選手や地域の方も喜んでもらえるよう、さらにいろいろな選手を紹介していきたい。</p> <p><質問> 老朽化した施設の更新等の問題があるなか、スポーツコミッションをさらに進めていくにあたり、8市町を今後拡大していく考えはあるか。</p> <p><答え> 岩手県は四つのグループにわかれており、8市町で1グループになっている。これ以上大きくすると、県全体と規模が同じになってしまう。また、岩手県は四国4県と同じで広いため、実感としては不便になり、現在のところは、さらに広げることは考えていない。</p>	
その他	 	

調査内容	視察先	青森県八戸市（八戸市議会）
	日時	平成 30 年 5 月 17 日（木曜日） 9 時 30 分
	調査項目	八戸ポータルミュージアム「はっち」の取り組みについて
	選定理由	「はっち」では、まちづくり、文化芸術、観光、ものづくり、子育てなどの複合的要素を混在させ、多様な人々やアイデアが行き交う場を意識的に創出するプロジェクトである。観光紹介・アートプロジェクト実施等、交流と創造の拠点として、地域の活性化を図る取り組みを本市の参考とするため視察を行う。
	概要	八戸には人、もの、食、文化などの財産がたくさんあり、八戸ポータルミュージアム「はっち」は市内の観光スポットに誘うポータル（玄関口）としての役割を果たすミュージアムである。新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図りながら、中心市街地と八戸市全体の活性化を図るため、平成 23 年 2 月にオープンした。八戸の魅力を凝縮して展示する八戸観光の入口であると同時に、シアターやギャラリーはアーティストや市民の活動の場として活用されており、館内にはカフェやショップも入居し、さまざまな楽しみ方のできる施設である。
主な質問	<p><質問>「はっち」は、当初は山車会館の地元要請があってスタートしたようだが、翌年には方針転換して、今の形に話がまとまっているが、その経過はどのようなものか。</p> <p><答え>当初は、40 億円もかけて何をやるのかと非常に風当たりが強く、北京オリンピックの関係で、鉄骨資材等が高騰して設計変更を余儀なくされるなど、開館までのプロセスは非常に苦労した。しかし、完成後は市民にも目指していたものがわかり、反対する意見はなくなった。また、東日本大震災のときに避難所になったことも非常に大きく、新たな役割もあり、市民から受け入れられている。</p> <p><質問>PFI 方式で行ったのか。</p> <p><答え>市の公共事業として実施しており、費用は国のまちづくり交付金と合併特例債を使っている。起債としての部分はあるが、国から更正措置されるため、市の負担はない形で建築した。</p> <p><質問>中心市街地の一等地に建設をして、経済効果や収入はどのように考えているのか。</p> <p><答え>歳入は 3 千万円弱に対し、歳出は 2 億 8 千万円と、1 対 10 の割合となっているが、行政として責任を持って中心街のにぎわいをつくるのが行政の役割と考えている。</p> <p><質問>文化芸術が盛んのようにだが、市外からアーティストを呼び込む仕組みはあるのか。</p> <p><答え>直営の「はっち」は職員が異動で代わるため、開館当初から文化芸術アドバイザーを配置し、アートプロジェクトの方向性などを提案してもらい、それに合ったアーティストを選んでもらっている。</p> <p><質問>館の運営は新しい取り組みだと思う。市長のトップダウンがあったのか。</p> <p><答え>市長がやりたいと言って始まっており、行政がやらないような横丁のイベントなどを実施していることは大きい。事業が認知され、また何かやっていると思われるっており、市民も違和感はないようだ。</p>	
その他	  	